

外来生物等による健康生活被害の 予防・低減

(研究期間：平成 28 年度～平成 29 年度)

社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室

研究官 (博士(理学)) 益子 美由希 室長 舟久保 敏



(キーワード) 外来生物、健康生活被害、都市公園、公園管理

1. はじめに

近年、外来生物の侵入、定着による人間生活への悪影響が懸念されている。また、公園管理においては、利用者等の安全確保の観点から、外来生物に限らず在来生物を含めた生物被害の防止に向けた対策が求められている。そこで、公園管理者等が生物による被害に適切に対応し、被害を予防・低減できるよう、公園緑地を含む都市環境において近年傷病等の健康生活被害を与えている又は今後与えるおそれのある外来生物等を対象に、生物の生態的知見を踏まえた被害の予防・低減措置等を整理し、公園管理者向けのマニュアルとして取りまとめを行っている。

表 対象とした生物と代表的な被害例等

No.	主な環境	対象種	代表的な被害例	緊急度
1	樹林	イノシシ	咬傷、感染症	A
2		ヒグマ、ツキノワグマ	咬傷、裂傷	A
3		野犬	威嚇、咬傷	A
4		ハクビシン	糞害、感染症	C
5		カワウ	糞害	C
6		ムクドリ、インドハッカ	糞害、騒音	C
7		フタゲチマダニ、キチマダニ等	感染症	B
8		イガ、チトカ、タイノチカ等	皮膚炎	B
9		クロジャコウカミキリ	倒木・落枝による受傷	C
10		キヨロサシガメ、オオトビサシガメ等	毒(刺傷)	B
11		ヤマビル	吸血	C
12	ツタウルシ、ヤマウルシ等	皮膚炎	B	
13	タイワンハブ、サシジハブ、ニホンマシ、ヒメハブ	毒(咬傷)	A	
14	樹林・草地	アムールハリスミ、ヨーロッパハリスミ	感染症の可能性	B
15		ハンソトガラス、ハンボソガラス	威嚇、襲撃	A
16	草地	ツマノハスガハチ、オオスガハチ、アシナガハチ類	毒(刺傷)	B
17		ヒトスジシマカ、ネッタインシマカ	感染症	A
18	アフリカマイマイ	感染症	B	
19	草地	メリケンキンゼウ	刺傷(無毒)	B
20		スイセン(全種)	咬食による中毒	A
21	建物	クマネズミ、トブネズミ	感染症、咬傷、火災	B
22	樹林・草地	サソリ類(マダラサソリを除く)	毒(刺傷)	B
23		アラビゲマ	感染症	C
24	園路	セアカゴケグモ、ハイロゴケグモ	毒(刺傷)	A
25		ヒアリ、アカカミアリ	毒(咬傷、刺傷)	A
26	淡水	アジサイ	咬食による中毒	B
27		ピラニア等の肉食淡水魚	咬傷	A
28	海浜	ワニガメ、カミツキガメ	咬傷	A
29		ホテイアオイ	悪臭、水質汚染	C
30	海浜	ハブクラゲ	毒(刺傷)、ショック症状	A
31		カンオノエボシ	毒(刺傷)、ショック症状	A
32		カンオノカムリ	毒(刺傷)	C
33		ヒョウモンダコ	毒(咬傷)	A
34		ガンガゼ	毒(刺傷)	B
35		ゴンズイ	毒(咬傷)	B
36	アイゴ	毒(刺傷)	B	
37	エラブウミヘビ等	毒(刺傷)	A	

【対象種】青：外来生物、黒：その他(在来生物、園芸種等)
 【緊急度】A：緊急対応(人命に重大な被害を及ぼす、又は社会的関心が高い生物)
 B：拡大防止(負傷や感染症の被害を及ぼす生物)
 C：対策検討(軽微な負傷や悪臭等の被害を及ぼす生物)

2. 生物の生態、被害の予防・低減措置等の整理

平成28年度は、近年の被害例から25科の外来生物等を対象として選定し、分布や生息環境といった生態、被害の発生活況、主な症状、被害の予防・低減措置等について、国内外の文献、官公庁のホームページ、有識者へのヒアリング、全国の国営公園へのアンケート等から情報を収集・整理した。

平成29年度は、全国の国営公園からの意見聴取を踏まえ、新たに12科の外来生物等を追加し、前年度と同様の情報収集・整理を行った。その上で、計37科の対象生物(表)について、種ごとの生態、予想される被害、被害の予防・低減措置の解説を取りまとめた(図)。加えて、公園の環境の違いに応じた管理方法、被害発生時の素早い対処や原因生物の特定のためのフロー等、生物種横断的な予防・低減措置も整理した。最後に、これら内容をもとにマニュアルを仮作成し、国や自治体を合わせて全国15件の公園管理者に試用いただき、意見を取りまとめた。



図 マニュアルでの個別生物解説ページ例

3. おわりに

今後、試用結果で得た意見の反映を検討して本マニュアルを作成し、国総研資料として公表することで、生物被害の防止に役立てていく。